

# 2024 年夏 CV 実施報告書

1. はじめに ~全体を通して~ 文責 実行委員長 医学科 4 年 木村梨奈子

6 月 23 日(日)、令和 6 年度夏キャンパスビジットを開催いたしました。今回は例年通りの企画をさらにアップデートさせ、加えて学食にて食事の提供を行うという新しいイベントを行いました。これまでのキャンパスビジットよりさらに医学生の実生活に沿った内容になり、高校生にも楽しんでいただけたかと思えます。

このキャンパスビジットは、本学医学科への進学を考えている方や、本医学科に興味を持っている高校生等を対象にしたものです。毎年夏に行われる大学によるオープンキャンパスとは一味違い、有志学生から成る実行委員会が主体となり開催します。本学医学科の魅力や医学科生のキャンパスライフを紹介する他、実習機器体験や入試相談会など様々な企画を準備し、高校生の受験へのモチベーションアップにつながるよう今年も準備を進めてきました。

## 【当日の様子】

まず本キャンパスビジット実行委員会の顧問をしてくださっている泉川先生より開会のご挨拶を頂きました。

1 時間目の在校生講話では、2 年川野と 4 年大塩が大学受験での体験や学生生活について説明しました。入試科目についてなどを分かりやすく解説してくれ、高校生も真剣にメモする様子がみられました。質問も時間内に終わらないほどたくさん出ており、高校生方の意欲を改めて感じました。



▲ 学生発表の様子

2 時間目には、2 名の先生方よりご講演いただきました。

臨床感染症学の田代将人先生は、医師としてのキャリアや、感染症のテーマに関してお話してくださいました。学び続け挑戦し続ける姿勢を伺い、高校生だけでなく我々実行委員も大変勉強になりました。腫瘍外科の宮崎拓郎先生はたくさんの写真とともにご経歴や専門についてわかりやすく説明してくださいました。お二人の先生方のお話により、高校生には医学生の実生活だけでなく医師としての将来像にも魅力を感じていただけたと思えます。



▲講師講演の様子

今回は新しい取り組みとして、生協の方にご協力いただき学食にて昼食の提供をいたしました。学生生活を送るうえで切っても切り離せないのが昼食時間です。実際に大学生が利用するのと同じように高校生に体験していただき、さらに大学生活を実感していただけたと思います。今回はトルコライスを提供していただきました。高校生もとても喜んでいました。また昼食の際高校生と実行委員と一緒に食卓を囲むことでさらに仲を深めたくさん話ことができました。



▲食事の様子

昼食後は、レクリエーションとして校内見学、クイズ、ポンペ探しを実施しました。校内見学の要素としてポンペ探しを追加したことでレクリエーション要素が強くなり、高校生同士も会話が弾んでおり和気あいあいとした時間になったと思います。ただ当日暴風雨であり、校内見学の際の移動がかなり大変であったため、今後のキャンパスビジットでは悪天候の際の対応を事前に考えておく必要があると感じました。

校内見学のあとは、実習体験でした。これまではいくつかの実習項目を時間内にローテーションする形式をとっていましたが、今回は最初から内科・外科・救急科に分かれ、実習でできることを増やしより深い体験をしてもらいました。大学生活でもなかなか触れることのできない実習機器を使用しての実習であり、高校生からは実習が一番楽しかったという声も見受けられました。



▲実習の様子

今回、これまでのキャンパスビジットから変更した点がたくさんある中で、無事にキャンパスビジットを遂行できたことを心よりうれしく思っております。今後も長崎大学医学部を目指す人たちのモチベーションをあげたり、あるいは進路選択の助けになったりするようなキャンパスビジットを作るべく学生スタッフ一同全力で取り組んでまいります。

最後になりましたが、参加して下さった高校生の皆様、大学関係者の皆様、本当にありがとうございました。特に、ご講演いただきました田代先生、宮崎先生、機器体験に関して様々ご指導いただきました大学病院シミュレーションセンター 中山先生、昼食提供のご協力いただきました生活協同組合 東様、熱研ミュージアムにて解説いただいた飯島教授に心より御礼申し上げます。実行委員の至らぬ点が多く、ご迷惑をおかけしましたことも多くありましたが、皆様のご協力のおかげで無事に第11回キャンパスビジットを開催することが出来ました。ありがとうございました。引き続きキャンパスビジットをよろしく願いたします。



▲集合写真

## 2. 各プログラムについて

### (ア) 在校生講話・先生ご講演

文責 佐瀬光雄

学生発表については2年の川野さん、4年の大塩くんをお願いしました。かなり急なお願いになってしまいましたが、それぞれの視点でわかりやすく入試や学生生活のことについてお話ししてくれました。特に、「長崎＝地域医療」というイメージが強い中、川野さんは自身が研究する病理学(原研)について、大塩くんは長崎が得意とする感染症や移植医療について話してくれたのは新鮮で興味深かったです。

す。お二人とも忙しく、ほぼぶっつけ本番という形にはなりましたが滞りなく進めることができました。

講師講演は、「医学っておもしろい！ ～内科、外科の視点から～」というテーマでお二人の先生にご講演の依頼をかけさせていただきました。これまでの講師講演では、ご自身のご経歴や医師になられたきっかけをお話しいただいておりましたが、医学生になった気持ちで「医学」そのものに触れて欲しいという思いでこのようなテーマにさせていただきました。1 人目の感染症内科 田代先生はご自身のお話に加え、感染症というものを扱う上で必要な考え方やスキルについてお話しいただきました。学生にとっても大変学びのある話で、改めて感染症学に関心がわきました。2 人目の腫瘍外科 宮崎先生はご自身の話を中心に、現代の外科技術の進歩などについてお話しいただきました。どのお話も大変興味深く、また率直に「外科医ってカッコいい」と感じることができました。当初の予定よりも時間がおしてしまったり、講演前、プロジェクターの接続がうまくいかなかったりと、様々トラブルもありましたが先生方のご協力もあり無事講演を終えることができました。

全体を通して特に大きなトラブルはなく、各発表を終えることができました。一方、リハーサルが十分に行えず時間がおしてしまう問題は、今回含め過去数回見られております。最大限調整はしつつ、その後のプログラムに余裕を持たせるなどの工夫は必要かと思えます。また、学生あるいは講師の先生に講演を依頼する際、テーマを明確に示すことでバランスの良い発表になると思えます。

最後にはなりますが、今回の講演を引き受けてくださった4名の皆様、またご講演の依頼に際しご尽力いただいた泉川先生に厚く御礼申し上げます。

#### (イ) 学部内見学・レクリエーション

文責 尾崎瑠音

午後は60分間の坂本キャンパスフィールドバックから始まりました。熱研ミュージアムでは館長の飯島渉教授、風間真助教授から興味深い解説をしていただきました。日本では制御出来ている感染症であっても、世界各地では医療や衛生環境が整っておらず苦しむ方が大勢いるのだと実感しました。そのほか、今回は医学部ならではの授業である解剖にスポットを当ててみました。解剖着の着用体験や解剖室付近の見学を通して五感でリアルな医学部を体感できたのではないかと思います。また、普段医学生が利用する生協や図書館も回り、楽しいキャンパスライフがイメー出来たと信じています。同時に長大クイズも実施し、優勝チームにはいしやっちゃんキーホルダーを贈呈しました。今回は新たに追加した内容が多く満足感が高かった一方、各地点で丁寧な説明やクイズ解答をする時間が十分ではありませんでした。今回の反省点を出し合い、次回はより良いキャンパス見学が提供できるよう精進いたします。



(ウ) 実習タイム

文責 高椋賀大

今回の実習では、高校生に内科・外科・救急科のいずれかを選択してもらい、それぞれの科で充実した体験ができるようにしました。

内科では血圧、心電図、呼吸音を、外科では内視鏡、糸結びを、救急科ではBLS、除細動器、気管挿管を扱いました。

まず、学生側の事前準備ができていたのはとても良かったです。今回はローテーションシステムは導入せず、それぞれの科で90分実習を行うことで、さまざまな手技を深く扱うことを目標にしていたのですが、全員がシミュレーションセンターにて機器の扱い方、教え方を学び、リハーサル等の準備を十分にできていました。

また、当日は高校生が選択しなかった他の科も最後の15分を使って自由に見学できるというシステムも導入したことで、高校生の満足度が今まで以上に高かったのではないかと思います。

反省点としては、高校生に事前に実習の希望を聞きそびれていたことです。希望を聞いていなかった高校生には後日メールで連絡をしましたが、おそらく高校生側のメールの受信設定等で、3人ほど回答が得られませんでした。次回以降実習を希望選択制にする際には、忘れないようにする必要があります。

また、シミュレーションセンターの中には一部購入が必要となるものもあるということ、高校生が怪我や機器を破損したときのために保険に加入することについて、予め学務課やシミュレーションセンターに相談し、必要であれば購入のお願いを早めにおこなう必要があったという反省点もあります。